

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階)

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2791400076 | | |
| 法人名 | 医療法人神明会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ロ・スカールおおまだに | | |
| 所在地 | 大阪府箕面市粟生間谷西3-5-7 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年11月4日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 |
| 訪問調査日 | 令和5年12月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がこれまで生きてこられた生活歴やご経験、趣味嗜好などアセスメントし、少しでも施設での生活を豊かなものへと繋げられるよう取り組んでおります。
また働く職員に対しても、その方が得意とするところで、活躍できるよう配慮しながら良いところを伸ばせていけるよう取り組んでおります。
のどかな土地柄、ゆっくりと穏やかに過ごして頂き、医療法人ならではの医療体制を活かし看護師と一緒に日々の健康管理や体調不良時の対応をしております。介護、医療との連携体制は充実しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2002年開設の医療法人が北摂と周辺地域に13の医療・介護拠点を幅広く展開する中で、当事業所は開設14年を迎えた。事業所は、自然が残る田園地帯に戸建てやマンション・スーパーなどが点在するのどかな環境に、現代的な3階建ビルの2・3階に2ユニット(18室)と有料老人ホーム(6室)があり、1階にデイサービスセンター(定員35名)を併設し、相互に有機的連携を図っている。事業所名「ロ・スカール」はイタリア語で「寄港地」を意味し、人々や情報が集まり、高齢者の心と体を癒す港となるという願いがある。また、グループホームならではの良さをゲスト(利用者)に一層感じてもらえるよう、ホーム長(管理者)が厚い信頼を寄せる全職員との協働でケアに当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念をフロア内に掲示し、年二回の面談で確認しております。 又、ケアの課題が出てきたときには、理念に基づき考え答えを導き出すよう心がけております。 | 法人理念「愛・共感・奉仕」とは別に、事業所開設時からの理念「共に寄り添いながら楽しく暮らせるよう、その人が持っている能力を活かしてもらえ支援と、個々の思いを大切にしたいケアを行います」を、各フロアに掲示している。ホーム長(管理者)は、職員がケアに困ったときに理念に立ち返って適切な対応を行うことをあらゆる機会をとらえ伝えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ5類へと移行されたものの、法人内では夏の時期に罹患者が多く出ておりましたので、外部との積極的なつながりが取れていません。 敬老の日に民生委員の方からの記念の品と消防訓練となっております。 | 今年に入っても一時事業所内でのコロナ感染の対応に追われたが、法人ルールとホーム長判断により、近隣の散歩やスーパーへの買い物、万博バラ園への遠出等、利用者との交流を徐々に開始している。家族等との面会は、コロナ禍での対応とは異なり居室で実施している。家族同行による外出・外泊等も希望に応じ実現に向かっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 職員からの私的な相談事(介護サービスの利用)や、見学対応時にお困りごとに対し弊社の利用がなくとも、総合的な意見をお伝えしております。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ5類へと移行されたものの、法人内では夏の時期に罹患者が多く出ておりましたので、会議は実施しておりません。本年度よりアンケート形式でご意見を頂戴しご回答させて頂いております。 | 運営推進会議は、今年度も市の了承を得て書面で継続している。事業所作成の報告書(レクリエーション、事故・ヒヤリハットと対応、研修・人事、施設修繕等)を、従来の対面会議での参加者に配付している。報告書に対する家族からの感想等は利用者の約半数から届いているが、行政、地域代表、知見を有する者からの評価等は見られない。 | 法人・事業所や行政等の事情が許せば、早い時期に対面会議の再開を期待する。書面会議継続中においても家族以外の評価・意見や情報等の入手と報告書(議事録)への記載を望む。対面会議再開の際には、事業所運営に協力的である薬局担当者の出席依頼も期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 年4回連絡会を開催しており、箕面市職員と箕面市GHの代表者で情報共有と意見の交換会を実施しております。またそこでのつながりを元に、介護保険上の疑問点などは、協力いただきながら解決しております。 | 市の窓口とは、必要に応じ報告・連絡・相談を行っており、コロナ感染時や運営指導で往来があった。定期開催のグループホーム連絡会には市職員の参加もあり、地域情報の入手や問題解決の場ともなっている。コロナ感染時には地域保健所の支援を受け、府からは現在も抗原検査キットの配布で職員や外来者等の感染防止対策に役立っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は実施しておりません。入職時の研修と年二回の研修を実施しております。 | 「身体拘束適正化のための指針」を整備し、年4回の委員会、入職時と年2回の定期研修を実施し委員会議事録と研修報告書を適正に保存している。利用者の安全性確保のため各フロア出入口は施錠しているが、職員同行で各フロアや玄関への往来はでき閉塞は感じない。夜間は約半数の居室で人感センサーを使用し、転倒防止等に備えている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年一回の研修を実施しております。R6年4月より入職時、年二回の研修の実施と委員会活動を予定しております。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内研修を通じて学び、必要時に活用できるように努めております | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に重要事項説明書を用いてご説明を行い、法改定や料金変更時などもご説明したうえで同意書を頂いております。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議のアンケートを取りその結果をお伝えしております。又、ご面会時、お電話などで、コミュニケーションをとり、出来るだけ生活のご様子をお伝えし信頼関係を築いております。 | 利用者家族へは運営推進会議の報告書を郵送し、約半数から感想等が届いている。その他毎月の利用者の様子の写真送付、必要時の電話やLINEでの連絡、面会時の聞き取り等で利用者家族の意見・要望等を聴取のうえ利用者支援や事業所運営に活かしている。家族の事業所への信頼は、評価機関のアンケート回答からも十分窺える。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年二回の面談で職員の意見を吸い上げたり、月一度の介護の会議で意見を聞く機会を設けています。 | ホーム長が全幅の信頼を寄せる職員との関係を含め働きやすい職場であることが、職員へのヒアリングで感じられた。人事面談、会議での意見等の吸い上げや必要時には介護応援に入るなどホーム長と職員とのコミュニケーションが図られている。法人ルールの壁はあるが、法人・施設長・ホーム長・サブリーダー・職員間の機能も有効に働いている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年二回職員と面談を行い向こう半年の目標設定と過去の振り返りと目標の振り返りを実施しております。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者とは別に役職者を配置し、職員に合わせた介護を実践しております。法人内研修の参加し質の向上を図っております。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 箕面市のGH連絡会に参加させていただき、同業者との交流を図っております。箕面市との活動(就職セミナー、お仕事紹介)などにも参加させて頂いております。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 見学対応・面談時よりしっかりとアセスメントさせていただき、不安やお困りごとを吸い上げ、施設として何が出来るか検討。傾聴することを重要視し、穏やかにゆったりと過ごして頂けるよう努めております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学対応・面談時よりしっかりとアセスメントさせていただき、お困りごとについての課題を吸い上げ施設として何が出来るかの説明をさせていただく。またご入居後の生活状況や課題等をご家族様と共有し、一緒に介護をしていくという姿勢をお伝えしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | お困りごとなどの課題を明確にし当施設でご利用いただく上で、健康面、精神面に優先順位を検討し必要なサービスを検討しております。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お客様であり家族なのだという考えのもと運営しております。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人、ご家族様、施設職員の三者が主となり生活の基盤を支えていくと考え実践しております。ご本人、ご家族の思いを汲み取りながらご家族様には無理なく介護に参加して頂いております。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族様以外のご面会は、両者に了承を経て、お会いして頂いております。又、なじみの場所で実現できることはお手伝いできればとお考えております。 | 家族以外の知人・友人との面会は、家族の了承のもと実現している。コロナ禍では制限の多かった面会も、現在は居室で行うことができる。また、家族が同行する外出や外泊も希望に応じ実施されている。外泊が許可されたことで、正月に実家に帰る利用者・墓参りや法事に出かけるなど利用者や家族の自由度は広がっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食席や、ソファ、レクリエーション、洗濯物のたたみ、食事の盛り付け等の活動の場面において交流が持てるよう、支援しております。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 療養型へ転院されたご利用者様へその後の経過やご様子を差しさわりのない範囲で伺うようにしております。 その際お困りごとなどがあれば対応させて頂いております。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人様からのご意見が頂戴しにくいケースが多いため、ご家族からのアセスメントや、生活歴などから推測し相談しながら進めさせて頂いております。 | 入所希望者には、ホーム長が看護師と病院等を訪問したり、計画作成担当者と自宅を訪問したりして、本人や家族の思いや意向の把握に当たっている。現状は、認知度が進み、意見表出が困難な利用者が大半を占めるが、当初把握した、生活歴・趣味や好みの食べ物等を参考に家族の支援も得て、全職員がチームとして支援に当たっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご面談時にご本人や、ご家族様からアセスメントを行い把握しております。在宅サービスなどご利用の場合はケアマネージャーからも情報を頂いております。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活においてよく身体の動きを観察し変化があれば、情報共有を実施。 支援中において日常的なレクリエーションの中で身体能力の把握に努めております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメントとモニタリングを繰り返しながら計画を立てております。 ご家族様にはご意見を主とし生活歴や性格、お仕事、家庭環境などお聞きし介護、看護、薬剤師、往診医の意見をケアに反映できるように努めております。 | 利用者に寄り添って得た一人ひとりの思いや意向を把握・記録し、職員間で情報を共有している。計画作成担当者が中心となり、本人や家族の思いや意向、職員の情報や訪問診療医・常駐看護師や薬剤師の意見やアイデアを参考にして計画書を作成している。計画書は、概ね3か月ごとに見直しを行い、家族等に計画の説明を行い同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のご様子を介護記録に記録し共有したものを介護計画の見直しに活かしております。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | コロナ過においては、冠婚葬祭など抗原検査を実施して頂いたうえで、参加して頂いておりました。また、食事量の変化に伴いお元気になって頂く為に、好きな場所へ行けるよう配慮や、ご家族様とご面会しやすいように配慮等をしております。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 外出の機会を増やし、近隣のスーパーへ買い物を楽しんでいただいたり、神社にお参りしております。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関のご説明を実施し了承を経て受診して頂いております。 施設看護師が間に入り連携をとっています。 | 希望するかかりつけ医となっているが、利用者全員が協力医院の内科(月2回)の訪問診療を受け、歯科(週1回)は希望者が受けている。緩和ケアと放射線科受診の人は介護タクシーの利用や事業所からの同行支援で受診している。常駐の看護師による健康管理・医療支援で、利用者・家族には安心な医療連携体制となっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 状態の変化や、夜間の様子、排泄状況など記録物を中心に報告し適切な医療が受けられるように努めております。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ご入院中より状態の確認や、退院の調整、身体能力や病状の把握、退院後の必要な処置お薬の調整など情報交換させて頂いております。またご入居に係る営業の機会や、入居受け入れなどの機会にて関係性を作っております。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご利用者の状況を往診医と相談し、早い段階からお話の場を設けております。今後起こりうる状況などを織り交ぜ、支援の方向性を家族、医師、看護師、薬剤師、介護、計画作成担当で話し合いチームとしてケアに取り組んでおります。 | 入居時に「重度化した場合(看取り)の指針」文書で説明し、利用者・家族の意向を聴き取り、同意書を交わしている。身体状態悪化時には主治医から説明し、家族から今後の意向を確認して方針を統一している。終末期ケアでは随時関係者(家族・医師・看護師・管理者・ケアマネジャー・職員)で検討と話し合いを繰り返して取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年一回のAEDや心肺蘇生の研修を実施しております。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 近隣の同法人と連携し仕組みを構築しております。また災害マニュアルを周知しております。食料備蓄はR5年12月に物置を設置予定となっております。 | 日中想定防災訓練を利用者も参加して年2回実施している。水・おかゆ・缶詰・マスク・ガウンなどの備蓄品と緊急連絡網を整備している。事業所周辺は田・畑・スーパー・マンションが点在している地域性により、近隣の協力体制が取りにくい環境下にある。夜間・風水害・地震想定訓練が課題となっている。 | 建物2・3階の居住空間と利用者のADL低下の状況を考慮した避難誘導・経路を全体で検討し、夜間・自然災害想定も含めた訓練の実施を期待する。又消防署立ち合いを要請し、事業所の建物構造に適した避難誘導・方法の指導・アドバイスを求める事を望む。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 研修の実施と接遇の研修も実施しております。 | 個々の思いを尊重する事を大切に、一人ひとりの意見や好みの把握に努め、それに沿ったケアの実践に取り組んでいる。適材適所の声掛けや言葉遣いに留意し、不適切な言動の際にはリーダーが個別で注意を促している。排泄・入浴時のドアの開閉に留意し、転倒し易い人の排泄時にはドアを開けてカーテン使用で、対応がしやすいよう工夫している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いを尊重できるよう、聞き取り確認や、表情、動きから判断を行い。介護側の都合とならないように、利用者の思いをくみ取れるよう意識付けしております。 どこで過ごすのか、お洋服を選んだり、レクリエーションにおいて自己決定できるよう努めております。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の習慣や生活リズムに合わせながら、その人らしい生活が出来るように、個別ケアに取り組んでおります。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の好みのものを選んで頂けるよう心がけたり、傷んでおられないか、汚れがないかボタンが乱れていないか確認しております。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | あと片付けをご一緒して頂いたり、食事レクリエーションにてケーキを作って頂いたり食事を楽しんでいただけるよう支援している。 | 管理栄養士による献立で事業所内の厨房で調理された食事を、各ユニットで盛り付けて提供している。同じ食事を摂っている職員が給食ノートに味付けや形態についての意見を記入し、改善に繋げている。月2回のおやつレクリエーション(月見もち・ゼリー・紅茶プリン・スポンジケーキ)を楽しみ、お寿司を食べたい要望には出前で応えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量の管理を介護士、看護師と連携し食事の確保に努めております。本人のお好きなものや、食べやすい物をご家族様の協力を経て対応しております。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご利用者に合わせたケアを行い週一回訪問歯科からのアドバイスや利用者のケアを実施しております。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 必要時には排泄パターンのアセスメントをしたり、個々の状態に合わせてながら、出来るだけトイレに行ける環境、体制を構築しております。ただし入眠確保など適宜対応しております。 | おむつ使用の人(1名)以外は習慣やパターンに合わせて、日中はトイレでの排泄支援に努めている。浮腫軽減が必要な人には排泄の促しやトイレの間隔に配慮して、皮膚トラブルに留意している。夜間時はそれぞれのリズムと習慣に応じた排泄支援で良眠を心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日中の過ごし方に配慮し腸が動くようレクリエーションに参加して頂いたり、水分確保に努めております。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個々の体調や気分に合わせてご案内しております。また、皮膚状態を考慮し定期的に菖蒲やゆずなどを使った。入浴の提案もしております。 | 週2回の入浴を基本に時間帯は希望に応じている。同性介助の希望者や、二人介助での入浴(各々2名)支援や、浴槽に跨げない人にはシャワー浴で対応し、個々に沿った入浴支援をしている。血流が悪い人、白癬の人は足浴を取り入れ、入浴拒否の場合は職員交代・日時変更・声掛けに工夫している。菖蒲・ゆず湯の季節湯を楽しむ時もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や習慣に合わせて支援させて頂いております。 室温や照明、音などに気を配っております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬情報をもとに現状把握し看護師のアドバイスをいただきながら服薬支援をしております。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 水やり洗濯物のたたみなど生活の中に活躍の場を提供し支援しています。 得意なところで活躍して頂けるよう支援しております。また散歩、買い物など外気浴に出かけたりしております。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的に夕方のお時間や、暖かいお時間など季節に合わせた外出支援を実施しております。 また本人の強いご希望もありご家族と車で神社へのお参りなども支援しております。 | 日常の外出は事業所周辺散歩やスーパーの買い物に出かけている。5類変更後は車で万博公園のバラ園に出かけ、久しぶりの遠出を楽しんでいる。家族同行での墓参りや冠婚葬祭の場に出かける人もいる。不穏症状が出た際には事業所前の駐車場やベンチで気分転換を行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理はキーパーソンとなっております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話に関しては、ご希望時には取次を実施しております。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔かつ、光、音、温度、湿度で適切となるよう安心して生活できるように努めております。 | リビング兼食堂の窓は大きく開けて採光も良い。リビング一画にソファを設置して寛げる空間を設けている。リビングの円筒形の大きな柱に季節の貼り絵(栗の木、紅葉の葉の中の利用者・職員の顔をモチーフしている等)を飾り、温かい雰囲気となっている。加湿器を整え消毒をこまめに、日用品雑貨は棚を設けて収納し、整理整頓に配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個別に居場所が確保できるように配慮しております。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅で使用していたもの、なじみの物、写真などご用意して頂き安心して心地よく過ごせるように配慮しております。 | 居室ドアに表札を掲げ、これまで慣れ親しんだダンスやテーブルとテレビ・家族写真・位牌・ぬいぐるみなど好みの物を持ち込んで、その人らしい居室となっている。ベッド・クローゼット・洗面台等が備えられ、歩行や転倒のリスクがある人には、手すりになるようにチェストの配置に工夫して安全面に配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人一人の能力に合わせてできる限り残存機能を活かしながら必要な支援を提供している。 | | |